

青戸地区震災復興まちづくり訓練

第1回 ガイダンス時のアンケートにて頂いた ご意見と葛飾区の考え方

頂いたご意見に対する区の考え方を以下にお示します。

貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後の取組の参考にさせていただきます。

(1) 「被災前のくらしをいち早く取り戻すために」の内容について

ご意見	葛飾区の考え方
<ul style="list-style-type: none">・避難対応が困難なため、在宅避難ができるよう進めているのは理解できるが、「スフィア基準」に対応できるような準備にも区として取り組まれているのか、知りたかった。	<p>(危機管理課より回答)</p> <p>前回時にお話ししたように、スフィア基準に対応していくには、避難者を減らす対策が前提となります。一方、能登半島地震の教訓から、避難所環境の改善に向け、スフィア基準を目指し進めることが重要となり、具体的な取組みの一例を紹介します。</p> <p>現在最も力を入れているのは、トイレの確保で、マンホールトイレの整備などを計画に進め、現状で、避難者 100 人に対し 1 基程度の確保が完了し、携帯トイレの備蓄などをさらに進めることで、50 人に 1 基の確保を目指し、取組んでいきます。</p> <p>プライベート空間の確保については、これまで授乳用の個室スペースが取れない避難所への配備や事業者との協定による間仕切りシステムの確保などを進めてきましたが、今後は要配慮者に対してできる限り早い段階で配備できるよう、昨年の補正予算で 177 基購入し、まずは福祉避難所で活用できるよう訓練などを開始したところです。</p> <p>これ以外にも、あくまでも試験的な試みとなりますが、移動式の循環型シャワーを今年度導入予定で、訓練などで活用し、今後の拡大について、検討を進めています。</p>

- ・災害時、地域と共に復興まちづくり対策として各自治会とそこに働く会社の社員との協力も必要ではないか。常に防災、水害の為に区として、この青戸地域に会社が有る経営者と話をし、各自治会、又は区の防災訓練等に会社の社員の参加を呼びかけては？

（危機管理課より回答）

危機管理課では、総合防災訓練を毎年開催するとともに、自治会やマンション管理組合などが実施している訓練の支援を行っています。

総合防災訓練については、コロナ以降、イベント型の総合防災訓練は実施しておらず、インフラ事業者など関係機関を含めた災害対策本部訓練を実施しています。さらに、応急対策業務（道路啓開、応急危険度判定、物資輸送業務など）については、区内の土木業、建築業、輸送業、倉庫業の方などとマニュアルの検討や訓練を進めているところです。

また、各自治町会などが主体となっている防災訓練については、一部の訓練では地区内の会社も参加する事例がありますが、多くの訓練では参加がないのが現状となります。

区民・事業者・行政の連携は、災害対策に欠くことのできないものであり、お話の提案を含め、連携強化に向け取り組んでいきます。

（都市計画課より回答）

本復興まちづくり訓練は、自治町会連合会会員の方と、町会に所属されていない地域住民の方を参加対象としており、各自治町会には参加者の選出をお願いしております。地区内の事業者に対してもチラシのポスティングは実施しており、「どなたでもご参加いただけます」とご案内しております。今後とも、より幅広い世代、立場の方にも参加していただけるよう取り組んでまいります。

その他、意見、感想（訓練のすすめ方、進行スタッフへのコメント等）

ご意見	葛飾区の考え方
<ul style="list-style-type: none">地域の中に外国人が非常に多く見られます。共々に一緒に勉強もしくは、防災訓練等の参加を区から、ぜひ依頼してください。	<p>(危機管理課より回答)</p> <p>区でも、同様の課題意識を持っており、日本語教室での防災講座の実施や多言語での防災情報の発信などを進めています。</p> <p>また、昨年度、初めての試みとなりますが、消防署と連携し、エチオピアコミュニティに対する防災訓練を実施したところです。</p> <p>引き続き、外国人の方々が、地域の防災訓練などに参加しやすい環境づくりを目指し、取組んでまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none">空席が少し有った様ですが、もっと各団体を通して集まると良いと思います。	<p>(都市計画課より回答)</p> <p>座席は余裕を見て準備しておりますが、次回以降多くの方にご参加いただけるよう、ふつこう訓練通信を毎回全戸配布させていただき、追加募集を実施してまいります。</p>